

MfG\_J\_Leaflet\_for\_Settaya\_strolling  
 (former MfG\_J\_Settaya\_Miyauchi\_Guide\_Plan)  
 摂田屋散策プラン、広域摂田屋を含む

序に代えて、クイズ

1. コース概要と本資料の作成の目的

2. 各コースの見どころの説明、時間モデル

- (1) Aコース (北側・宮内駅からスタートのルートの見どころ)
- (2) Bコース (南側からスタートのルートの見どころ)
- (3) Cコース (錦鯉、寺社、石彫の道コースの見どころ)

散策の主要通路 (右図の \*1,\*2 等)

昔の国道17号沿い(\*1) (現・県道三和滝谷線)

摂田屋の南側、北側は、旧・三国街道)

昔の三国街道 (\*2)

昔の行者の道 (\*3)

十兵衛小路 (\*4)

見どころの補足説明

なぜ、大正期に 追加見所

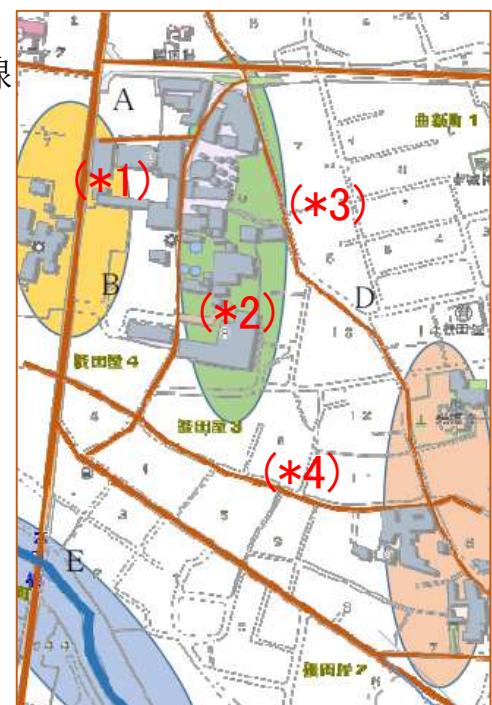
摂田屋 サフラン酒本舗 追加見所

醸造業の集積した訳は

吉乃川 漢字の追加説明

錦鯉 追加説明

日本人の宗教観の重層構造の一例



## 序に代えて、クイズ

絶対に見逃してほしくない点を、クイズでお示しします。

- ① 摂田屋の登録有形文化財の多くが、なぜ100年前あたりの建造物なのでしょうか。(それ以前の建物は少ないのです。)
- ② サフラン酒の建物の壁面にある綺麗な装飾を、鎧繪といいいます。蔵の東側、北側の鎧繪は、それぞれテーマを持っているのですが、何か、お気づきでしょうか。  
また、屋根の上の大きな鬼瓦や屋根の軒下に、龍が何頭か、います。  
この龍は、何のためか、お気づきでしょうか。
- ③ 日本酒、醤油、味噌と醸造関係が発展しています。  
なかでも、日本酒は、摂田屋町に二軒、そして近くの横枕町に一軒と集積しています。 なんででしょうね。  
ヒントは近くを流れる太田川の存在です。
- ④ 吉乃川の周りに、極上吉之川ののぼりがはためいています。 同社の主力商品のひとつですが、いい文字ですよね。  
どなたの手になる字か、ご存知でしょうか。
- ⑤ なぜ、長岡に錦鯉養殖の文化が根付いたのでしょうか。  
おわかりでしょうか。
- ⑥ 摂田屋の周辺には、本当に多様な神社があります。  
さらに、町なかでは殆ど見かけない、いろんな石塔があります。  
不思議ですね。 なぜでしょうか。

答えといいですか、答えを探すヒントを、見どころの追加説明のなかに、まとめました。適宜、お読み下さい。

## 1. コース概要と本資料作成の目的

摂田屋では、大勢の方が自由な散策を楽しんでおられます。私は長岡観光ボランティアガイドの会の会員として、市内の観光施設のガイドのほか、摂田屋ガイドも行なっていますが、同時に、サフラン酒本舗保存を願う市民の会の休日の庭園・離れの「公開スタッフ」としてもガイド活動を行なっており、サフラン酒を訪問下さるお客様に、いろいろなお話をさせていただいている。

私どもとしては、是非とも、散策にガイドの依頼をお勧めしたいところであります、急の計画、また時間に制約されたくない、など、日程的にご無理の場合もあると思いますので、自由散策の際の見所をご参考までに、まとめました。本当は、ガイドが同行させていただき、ガイドからの説明により散策の楽しさが倍加することも多いと思うのですが、本資料を散策時に持参いただくことで、見どころ逃しも少し減らせるのでは、と期待しています。

この日本語版のほか、英語版も作成しています。海外のお友達を連れての散策もおありになると思います。必要に応じ、英語版もご利用下さい。

### 見所説明

二時間を目途に、いくつか、ルートに分けて、ご参考プランをご案内します。

Aコース. 北側からスタートのルート（宮内駅前から）

Bコース. 南側からスタートのルート（吉乃川・醸蔵から、

または機那サフラン酒・米蔵駐車場から）

Cコース. 軽いハイキング、寺院、石彫の道を回るルート

（広いエリアのため徒歩では辛く、ハイキング、自転車か車）

見どころの詳細は、本ウェブページの「ガイドからのメッセージ」で、説明しています。散策の前に、必要に応じてご覧いただきたいと思います。

どこにあるか、わからない場合は、「ガイドからのメッセージ」のリスト・メニューで希望の情報が得られる場合もあろうかと思います。ご活用下さい。

サフラン酒・新施設オープン後、改訂予定

参考ルート図も作成予定

## 2. 各コースの見どころの説明、時間モデル

Aコース（北側からスタートのルートの見どころ

二時間、ゆっくり回られると、いろいろご覧になれると思います。

### 0. 宮内駅前からスタート

1. 宮内駅 宮内駅の信越線開業、中越から魚沼の行商の拠点駅  
長岡空襲・爆撃目標地点の一つ（交通、軍需工場の拠点）  
1898年（明治31年） 北越鉄道信越線・北条駅 - 長岡駅間に新設開業。  
この後、1964年（昭和39年）、柏崎方面に前川駅開業。  
前川神社は、戊辰の役・慈眼時会談決裂した河井継之助が、神社に出張っていた、後の三島億二郎と話し合ったとされるところ。  
国有化を経て、1920年（大正9年）11月1日：上越北線（現：上越線）の宮内駅、東小千谷駅（現：小千谷駅）が開通し、分岐駅となる。  
戦前は、工業地帯を形成。長岡空襲で駅の西側周辺は全焼。東側は駅前交差点周辺まで焼失のあと、南北に延焼が広がった。

### 2. 駅前交差点を南下

近くに明治40年創立・古志郡立上組農学校（現、県立長岡農業高等学校）。学校正門が、旧三国街道に面しています。  
宮内商店街と雁木通り。雁木は相互扶助の精神。  
長岡秋山孝ポスター美術館。  
美術館は、旧長岡商業銀行宮内支店。新設時の鉄筋構造建築の経緯と、長岡空襲延焼食い止め、摂田屋地区が火災焼失を免れた話。  
ここは五十年前まで、国道十七号。  
これからご案内する摂田屋の建造物の多くは明治後半から大正期。  
オイルシティ長岡の繁栄の後押しも大きかったと思います。

### 3. 宮内一丁目交差点を東に

そのまま南に向かうと、吉乃川・釀蔵、機那サフラン酒、更に太田川の橋

#### 4. 越のむらさき 交差点で

前の南北の道路、室町時代以前からの道で、修験道の行者も通った道。

南側は村松、山古志に通じています。

北側は、江戸時代には旧三国街道で、長岡町に至る道。

江戸時代に、ここで旧三国街道ができ、三差路になったと思われます。

ここ長岡の南部は、2004年10月の中越地震で震度6強。

震源は、一番端の山塊後方の長岡市川口で震度7。ここから15キロほど。

この地震で、ここから望める東山全体が70cm隆起したと言われています。

山古志という地名、地震で全村避難で報道をご覧になったかたもおられると思いますが、一番端の山塊の付近。ここから5キロから15キロの範囲です。

当時連日報道の、新幹線脱線停止現場は、ここから3キロほど南。

全高架橋維持・無事脱線停止は、当時のJR東日本の、阪神大震災以降の地震災害の経験をもとに、10年近くの愚直とも云える保守活動が功を奏したことをお話ししたいと思います。

#### 5. 越のむらさき

1831(天保2)年、創業のしようゆの会社。吉乃川・川上家から分家。

越のむらさきの煉瓦煙突は、中越地震で、上部の1/3が折損した。

主屋は、明治10年竣工の、登録有形文化財。

#### 6. 辻地蔵

古くは、集落の入口や山道の分岐点に安置されたものが多く、この辻地蔵も、長岡町にいた女の子が迷子で行方不明になってしまった両親が、その子の無事を祈って、三国街道と、その脇道の山道の分岐点のこの地に建てたと言われています。右は江戸、左は山道の文字が読みます。

越のむらさきさんは、お地蔵さん建立の25年後に創業ですから、建立当時のお地蔵さんは、村の入口の辻にポツンとあったのではと思います。

#### 7. 竹駒稻荷

明治の中頃、宮城県岩沼の竹駒稻荷から勧請されました。

人間生活の基礎である衣食住を守護するとされ、五穀豊穣、地域安泰の神様とされています。

岩沼の竹駒稻荷の正月初詣で客は、新潟の弥彦神社の人数と同程度と

言われているように、東北地方屈指の大きな神社です。

神様の御使いのキツネには、中越地震で破損した修理痕が残っています。

小さなキツネも見えます。

サフラン酒の吉澤家の菩提寺は鷺の巣の定正院ですが、そちらに、

このキツネと同じ作者の手になると思われるキツネが、石塔の前に

守護として鎮座しています。

#### 8. 旧三国街道を散策

黒い塀は、醤油酵母菌の棲みついた色とのこと。醤油酵母菌の寿命は一ヶ月ほどですので、開業以来、何代でしょうか。

おだやかな日には、最初にしょうゆ、そして、しばらく進むと日本酒の香。

道幅は、当時のまま。狭いですが、市道です。

摂田屋の醸造業集積の理由も、ご説明したいところです。

#### 9. 吉乃川・中越酵母工業

戦後の酵母事業、戦後のパン酵母製造への参入と現状。

全国の酒蔵の新酒酵母の受託開発。

#### 10. 吉乃川・醸蔵へ

## Bコース (南側からスタートのルートの見どころ)

Aコースに、以下の吉乃川・醸蔵、機那サフラン酒、星野本店、光福寺を入れて二時間で回ることも可能ですが、以下のコースは、じっくり周ることをお勧めします。二時間、三時間かけても、たいへんなさらず、お楽しみいただける、豊富な話題を持っています。

### 0. 吉乃川・醸蔵駐車場、または機那サフラン酒(米蔵駐車場)からスタート

- |              |  |
|--------------|--|
| 1. 吉乃川・醸蔵    | 醸蔵 展示物説明、お酒の話と試飲。<br>ゆっくりとお過ごしなさることを、お薦めします。<br>詳細な説明も、していただけます。<br>極上吉之川、天下甘露泉の書の説明も。<br>(清水寺・森清範師、大西良慶和上の書です)  |
| 2. 機那サフラン酒本舗 | 1884(明治17)年、創業。<br>吉澤仁太郎の創業、吉録絵蔵と主屋の説明。<br>録絵蔵は、ぜひガイドの説明をお聞き下さい。<br>庭園、離れは、じっくり見学されることを<br>お勧めします。<br>南の端の琴平宮も、ご覧ください。                                       |
| 3. 星六        | 明治30年星野本店から分家の味噌屋さんで、3~5年<br>ねかせる、手作りの濃い口の赤味噌。 シャッター、<br>看板にある文字は、中川一政画伯によるの書。<br>マンガ(美味しんぼ)に紹介され 有名となる。<br>書を拝見しながら、太田橋へ向かいます。(昔は定明の<br>八幡神社近くに橋) 詳細、省略します。 |
| 4. 太田川土手     | 埃坪川の排水機場、福島江の太田川サイフォン。<br>川上四郎さんの旧制中学時代の油絵の写生ポイント。<br>水鳥やキジのつがい、大きなサギの飛翔も見れるかも<br>知れません。気持ちのいい散歩になると思います。<br>遠くから定明の八幡神社拝観。<br>摂田屋城の位置予測。                    |

5. 長谷川酒造	1842(天保13)年創業、通りに面した煉瓦造りの建物 は大正時代に建てられた糀室。 雪紅梅(遠藤実命名)の酒がある。
6. 星野本店	1846(弘化3)年創業。 三階蔵の中の、明治初期の扉の文字の説明、 土壁構造の展示も、すばらしい物語があります。 事務所棟では、大正年間建造の洋風会議室。 事務所内では、醤油・味噌と料理レシピの説明も、 ぜひお楽しみ下さい。 この間、醸造の町・摂田屋、中世の長岡の説明を したいところです。
7. 光福寺	戊辰の役の旗揚げの場所です。 引き金となったアジア情勢。堀氏、牧野氏による 長岡の町割り、寺社配置とともににお聞き下さい。 歩きながら、西軍メンバ、東軍メンバと、その後の話も。
8. 吉乃川・醸蔵、機那サフラン酒・米蔵 戻り	

オプション	時間の余力のある方には、鶯巣の定正院様も。 その途中の横枕に、もうひとつの酒蔵、お福酒造。 お福酒造、吉之川の日本酒醸造業への貢献の話。 (軟水の克服、速醸配、大型タンク、自動製麴など。 全国酒蔵の新酒開発への麹製造受託。)
-------	--

## (3) Cコース (寺社、石彫の道コースの見どころ)

鶯巣のお寺	定正院とブナ林脇の散策
日本酒	お福酒造
山道散策	石彫の道、復元・石工の道
山道散策	石彫の道から南蛮山を経由して、竹之高地から蓬平への四時間ほどのハイキング
温泉	蓬平温泉の、日帰り入浴
山古志の棚池風景	絶景です。 摂田屋から、往復一時間で、記憶に残る景観を体験できます。

Cコースについては、ガイドというより、広域摂田屋として、知られていない場所の、リストアップです。

せっかく、摂田屋まで、いらっしゃったのですから、時間があれば、ゆっくり滞在されめことを、お薦めします。

## なぜ、大正期に 追加見所

「宮内、摂田屋の多くの施設、なぜ、大正期に」

～オイルシティの力で、長岡が繁栄したことと思っています。

長岡秋山孝ポスター美術館・旧長岡商業銀行宮内支店

吉乃川・釀蔵（旧常蔵）

サフラン酒の主屋の増改築、衣装蔵、鎧絵蔵の建築

星野本店・会議室や三階蔵の増改築

「東山油田」とは、長岡の東から三条にかけての一帯の山地に沿って分布する産油地の総称。明治9年当時の油田調査では、ほとんど廃坑に近い状態にあるとされていましたが、明治20年代に入ると、浦瀬から栃尾に抜ける榎峠で手掘りにより1坑が開削されたことを皮切りに、次々と有望な油井が見つかり、石油ブームを迎きました。

東山の有力な鉱業者(小坂松五郎、植栗順平、山田又七等)が、次々に石油会社・組合を起こし活躍しました。石油ブームの中心となった長岡市は、まさに「オイルシティー」として成長していきます。

明治20年代半ば石油採掘器具を生産すべく難波鉄工所・須藤鉄工所が設立された他、従来輸入に頼っていた石油採掘・精製機械を自製するために、明治35年には日本石油が新潟鉄工所長岡分工場を設立。39年には宝田石油などが中心となり長岡鉄工所組合を立ち上げました。油田のピークは明治32年～明治38年頃までで、その後は下降線をたどりますが、上記の工場は一般・工作機械の製造に進出していき、現在の工業都市長岡の基となりました。

工作機械は、旋盤、縦、横型フライス盤、エンドミル、中ぐり盤、放電加工機など非常に多岐に渡りますが、ひとつの街で、これら全部の機種を製造しているのは、長岡だけと、言われています。

## 摂田屋に醸造産業が集積した、3つの理由

### 1. 良質な水

豊富な信濃川の地下水、東山丘陵を水源とする太田川の扇状地先端に位置。

酒は水。江戸から明治にかけては、豊富な信濃川の地下水が大きなメリット。

太田川の扇状地先端 = 軟水であり、発酵が緩慢で不安定であることから、明治以前は酒りに不利とされていたが、当地の酒造技術者らの研究により、解決。逆に淡麗辛口のブームと相まって、独自の販路を開拓している。

渋海川扇状地先端の朝日山も同様。ちなみに、灘・伏見は100前後の中程度の軟水、広島・新潟は50前後の、かなりの軟水が多いとされている。

表1 水の硬度の分類（国税庁醸造試験所注解<sup>19)</sup>）

軟水	<3 度(53.4 mg/L)	
中等度の軟水	3 度	— 6 度(107 mg/L)
軽度の硬水	6 度	— 8 度(142 mg/L)
中等度の硬水	8 度	— 14 度(249 mg/L)
硬水	14 度	— 20 度(356 mg/L)
強度の硬水	<20 度	

度数はドイツ硬度を表す（1度 = 17.8mg/L）。特に、中等度の軟水および軽度の硬水は、広島ではそれぞれ中硬度水、軽度硬水と呼ばれている。この現場で使い慣れた名称で以下記述する。

佐々木健、佐々木慧、広島国際学院大学研究報告(2016)

### 2. 商売のしやすさ

江戸期、この地は長岡北部の蔵王神社・安禅寺の所領で、上野寛永寺の末寺であることから、長岡藩の支配が及ぼず、商売の株取得、税政などの規制が緩かったと思われる。

### 3. 良好的な物流インフラ

陸運の三国街道、水運の太田川～信濃川という物流インフラにより、米や麦の搬入、酒や醤油・味噌の出荷に便利。日本酒は秋～冬にかけて仕込むので、特に12月から初春の新種出荷時期は積雪・融雪による太田川水量の豊富さは、大きなメリットであったと思われる。

太田川～信濃川のルートの下流は、弥彦近くの地蔵堂から、西川、または新潟蒲原往来で新潟湊と直結しており、長岡は交通の要衝であり、その中でも、太田川沿いは有利だったと思われる。

## 摂田屋 サフラン酒本舗 追加見所

初代、二代の吉澤仁太郎の時代背景

2,300坪の屋敷、庭園。

建物の説明、庭の石、灯籠、池

ちょうど100年前に着工、10年後に錫絵蔵が完成。

初代、二代の吉澤仁太郎の時代背景

錫絵は九十年間、修理してなく、この鮮やかさ、というところから  
じっくりとご覧ください。

全国の錫絵との比較を知ると、興味倍増です

まず正面の玄武、青竜、朱雀、白虎、黄竜に、麒麟、鳳凰

そして北面の、イノシシから順次、十二支ほか、ていねいに見て下さい。

五穀豊穣、子孫繁栄、地域の安泰、などの祈りの現れだと思います。

龍は。サフラン酒本舗の屋敷全体に流れている通奏低音のようなものだと思います。

そして龍は。仏法の守護神のみならず、火防など、いろいろな意味でお守りです。

## 二代目仁太郎の政界進出と田中角栄

摂田屋パンフを入手し、時間があれば、パンフレットにありますような  
様々なところをご覧ください。 本ウェブでもデータをアップロードしています。

摂田屋は、蔵王権現領と長岡藩領がモザイク状に同居。 相給地(あいきゅうち)。  
蔵王権現の別当寺の安禅寺は、上野寛永寺の末寺ということで、税金や公の負担が  
少なく、新規の商売がしやすく、また水も清く、天然の恩恵もあって、はやくから  
新規事業の醸造業が集積したと云われています。

( 寛永寺は、現在の上野公園全域の境内のほか、最盛期には  
その他に大名並みの約一万二千石の寺領を有していました。 )

明治に入つても、仕事がしやすい環境だったようで、サフラン酒本舗の  
創業者も、明治27年に隣村の定明から摂田屋に移つてきました。

明治17(1884) 21才 サフラン製造開始

明治20 全国の酒造屋が淘汰されていった時期

仁太郎が、宮内地区の酒造屋を結集した。

明治27(1894) 31才 定明から摂田屋に移転

明治44(1911) 4月 大看板 棟札 彫刻 金子九郎次

大正2(1913) 金峯神社上棟 棟札に同じ

大正元年 大規模改修

大正5(1916) 1月起工 土蔵建築 請負人 壁 河上伊吉(屋号市助)

大正15 5(1926) 仁太郎 65才。 錫絵蔵完成

昭和6(1931) 70 才 数えで71才 離れ座敷 棟梁 平沢喜太郎 38才

昭和16(1941) 80 才死去。

生前、二代目として前島の堀井家から養子を迎えました。

## 吉乃川の漢字 追加説明

### 今年の漢字

毎年漢字の日の12月12日に、日本漢字能力検定協会主催により一般公募で選ばれたその年の世相を、清水寺の舞台で、清水寺の貫主(かんす)である森清範師が漢字一字を揮毫する「今年の漢字」。  
 「今年の漢字」が清水寺の舞台で発表される。  
 「極上吉之川」は森清範師の書。  
 「和泉屋」の「天下甘露泉」の命名は、前管主の大西良慶師。

### 「天下甘露泉」

吉乃川の仕込水は、敷地内の地下深くから湧き出る日本一の大河、信濃川の伏流水です。  
 「天下甘露泉」と呼ばれるその水は、ミネラルを多く含む軟水。飲み飽きしない、さらりとした酒質の吉乃川を醸し出します。  
 ちなみに吉乃川の屋号は「和泉屋」です。

### 吉乃川 厳選辛口 (吉乃川の定番辛口酒)

新潟県産米を100%使用し、麹造りから辛口に徹して造り上げました。どんなお料理にも合わせやすいキレの良い辛口酒で、きれいな口当たりが特徴です。  
 辛口がお好みの方にお送りするワンランク上の定番酒です。

### 「水」について、水は天下甘露泉と命名された

良質な地下水が豊富で、ここは東山丘陵地からの雪解け水と信濃川の伏流水が地下深くで交わる場所で、不純物や醸造に不適当な成分の少ない非常に優れた水だということ。

続いて「米」について、米は新潟県南部の山あいの地方や近郊の農家で造られたお米で、その大部分が新潟県産酒造好適米の中でも最高の「五百万石」というお米を使っている。

### 「吟釀 極上吉乃川」は、地元で契約栽培された【五百万石】を100%使用。

精米55%

### 「吟釀生原酒 極上吉乃川」精米55%

「淡麗で香味のバランスが良く、自然に次の手が出る飲み飽きしない酒」をコンセプトに、新潟県産の「五百万石」を用いて58%まで磨き、軟水「天下甘露泉」で仕込まれています。

特に、「純米大吟醸 極上吉乃川」は、地元で契約栽培された【越淡麗】を100%使用 精米40% 淡麗辛口  
「吟醸生原酒 極上吉乃川」精米55%

清水寺(きよみずでら)は、京都府京都市東山区清水にある寺院。山号は音羽山。本尊は千手觀音。もとは法相宗に属したが、現在は独立して北法相宗大本山を名乗る。法相宗(南都六宗の一)系の寺院で、広隆寺、鞍馬寺とともに、平安京遷都以前からの歴史をもつ、京都では数少ない寺院の1つである。西国三十三所觀音靈場の第16番札所。

摂田屋周辺には、寺院のほか、八幡神社、諏訪神社、稻荷、金比羅宮、十二神社など、多様な神社が多く、また十三夜講、庚申講、米山講など、民間宗教の石塔も見ることができます。

隣村の定明寺の門を入って、すぐ右に宝筐印塔もあります。

その理由は…

### 現在の、日本佛教

江戸時代の檀家寺統制、明治維新の廃仏毀釈、戦中の宗教界混乱、戦後の西洋哲学思想との対峙の時代を経て、現在～

鎌倉期の新日本佛教 = 全ての人が救いの対象  
新佛教の登場、旧佛教側の改革



日本佛教 = [日本の土着信仰心 + 中国佛教]  
国家鎮護のための佛教

中国佛教 = [中国の土着信仰心 + インド佛教]

インド佛教 = [インドの土着信仰心 + 原始佛教]

### 日本の土着信仰心

民間宗教、講（太陽・月・自然

～十三夜講、庚申講、米山講）

山岳宗教 = [自然崇拜 + 修驗道]

白山信仰

神様（八幡、諏訪、稻荷、十二神社）、神道（記紀）

守護神（賽ノ神、集落の鎮守の森）

### 世俗社会との関わり

外来宗教

## 錦鯉 追加説明

ここでは、摂田屋から遠くない錦鯉養鯉場をご紹介していますが、錦鯉の詳しい説明は、山古志の錦鯉を説明している別途資料を参照下さい。

ここ中越地方は、豪雪で知られたところです。

新幹線や高速道路網が発達した今では、信じられないことですが、その前、たかだか五十年前までは、数年に一度の豪雪のときには、一週間ほど、長岡周辺は孤立し、「陸の孤島」とまで、言われていました。

そのたび、自衛隊の協力を得て、鉄道除雪が行なわれ、生鮮食料品の輸送を確保していました。長岡の山古志は、もっと過酷な積雪です。現在の山古志支所のあるところでは、五、六メートルの積雪が当たり前でした。

そんな厳しさからでしょう、長岡の山古志、小千谷市の山古志東側の地域は、江戸時代から、冬季のタンパク源のために鯉の養殖が盛んでした。

その養殖魚のなかから偶然に生まれた色鯉があり、それを代々選別を重ねて改良し、大変な苦労の末に、現在の隆盛を見るようになりました。

以前は、雪のない時期に中山間地の棚池で養殖するのが殆どでしたが、飼育技術の進歩もあって、近年、平場に移転する業者も増えてきました。

そして今日のように、摂田屋から山古志への間でも点在するようになりました。

尚、山古志の錦鯉は、日本農業遺産に登録されています。

### ・日本農業遺産とは

2016年度に候補地を公募し、一回目の選定として全国8か所が選ばれました。

宮城県大崎地域 「大崎耕土の巧みな水管理による水田農業」

埼玉県武蔵野地域 「武蔵野の落ち葉堆肥農法」

山梨県峡東地域 「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」

静岡県わさび栽培地域 「静岡水わさびの伝統栽培」

新潟県中越地域(長岡市・小千谷市) :「雪の恵みを活かした稻作・養鯉」

三重県鳥羽・志摩地域 「鳥羽・志摩の海女漁業と真珠養殖業」

三重県尾鷲地域 「急峻な地形と日本有数の多雨が生み出す尾鷲ヒノキ林業」

徳島県にし阿波地域 「阿波の傾斜地農耕システム」

錦鯉育種に用いる原種の供給地であるとともに、西木鎧發祥の地でもあります。

錦鯉は、紅白、黄金、大正三色、昭和三色が基本ですが、全て明治から戦前にかけて、この地域の好事家が固定化に成功しています。

制定理由にもなった、錦鯉の養殖池である「棚池」と稻作の「棚田」で年間を通じた、絶景。しかも山古志は谷が深く、霧が流れやすく、幻想的な日本の原風景ということで、カメラマンに人気のスポットが随所にあります。

近くに美肌の湯で知られる温泉もあります。次回の長岡は、ぜひ、そちらに。

### ・新潟県中越地域の錦鯉選定理由

現在も、世界で行われている錦鯉育種に用いる原種の供給地であり、世界的に見ても独自性の面で確固たる地位を築いていると考えられる。

中山間地で水を確保するための、マキの協働作業による湧水や横井戸、雪溶け水の利用や、冬期湛水、渴水時に養鯉用の水を稻作にまわす仕組みなどの、当地の環境に適応した伝統的で独特な技術や知見は、高いレジリエンス(持続、回復力)を有する。

1年を通じ谷地に棚田と棚池が入り組んで並ぶランドスケープは特有。

## 定正院

1. 由緒沿革
2. 上杉 定正
3. 鷺ノ巣城

## 上杉 定正と定正院

1. 由緒沿革



<http://kojyosikyo.main.jp/Nagaoka-C/Saginosu-Jo/Saginosu-Jo.htm>

至石彫の道

『明応三年(1494)十月、鎌倉扇谷上杉管領定正、山内上杉顯定と合戦の最中、病死す。遺臣等遺髪を奉じ、越後上杉を頼り当地に至り、草庵を結ぶ。

春日林泉寺、曇英恵応禪師の直徒可淑和尚巡錫の砌、上杉ゆかりの草庵と聞き上杉謙信の援助を仰ぎ、一寺を建立、定正院殿志賀公大居士と追号し、師、曇英恵応禪師を勧請し開山為す。寺名は開基の院号より名付けたもの。

再三、火災にて焼失、現在の本堂は文政九年(1826)七月四日上棟、建立されたものである。』  
「新潟県寺院名鑑」より

## 2. 上杉 定正

(上杉 定正(うえすぎ さだまさ)は、室町時代の武将、守護大名。相模国守護、扇谷上杉家の当主。上杉持朝の3男。一般には『南総里見八犬伝』の影響で扇谷定正の名前で知られている。扇谷上杉家は関東管領上杉氏の一族で、相模守護を務め関東管領を継承する山内上杉家の分家的存在であった。

明応3年(1494年)、扇谷家重臣・大森氏頼と三浦時高が相次いで死去。同年10月、定正は伊勢宗瑞とともに武藏国高見原に出陣して山内顯定と対陣するが、荒川を渡河しようとした際に落馬して死去。享年49。長岡市にある定正院が菩提所と伝えられている。

山内 頸定=上杉 頸定(うえすぎ あきただ)

越後上杉家の出身で山内上杉家を継ぎ、関東争乱期の40年以上にわたって関東管領を務めた。

山内上杉家(やまのうちうえすぎけ)は、室町時代に関東地方に割拠した上杉氏の諸家のひとつ。足利尊氏・直義兄弟の母方の叔父上杉憲房の子で、上野・越後・伊豆の守護を兼ねた上杉憲頼に始まる家で、鎌倉の山内(鎌倉市山之内、現在でも「管領屋敷」の地名がある)に居館を置いたことに因む。

扇谷家家宰の太田道真・道灌父子は、河越城(埼玉県川越市)、江戸城(東京都千代田区)を築城するなどして、扇谷家の勢力は大いに拡大した。山内家と扇谷家は両上杉家と呼ばれるようになっていた。

定正は山内家主導で進められた和睦などに不満で、定正と山内頸定は合わなくなり、文明18年(1486年)7月26日、定正は、不仲になった扇谷家の家宰・太田道灌を相模糟屋館(神奈川県伊勢原市)に招いて暗殺した。(自分がいなくなれば扇谷上杉家に未来は

明応3年(1494年)、扇谷家重臣・大森氏頼と三浦時高が相次いで死去した。同年10月、定正は伊勢宗瑞とともに武藏国高見原に出陣して山内頸定と対陣するが、荒川を渡河しようとした際に落馬して死去。享年49。

長岡市にある定正院が菩提所と伝えられている。

太田 道灌(おおた どうかん)は、室町時代後期の武将。永享4年(1432年)、鎌倉公方を補佐する関東管領上杉氏の一族である扇谷上杉家の家宰を務めた太田資清の子として生まれた。武蔵守護代・扇谷上杉家の家宰。摂津源氏の流れを汲む太田氏。諱は資長(すけなが)。太田資清(道真)の子で、家宰職を継いで享徳の乱、長尾景春の乱で活躍した。江戸城を築城したことでも有名である。

### 3. 鶯ノ巣城

鶯ノ巣城は、定正院境内と墓地一帯に築かれていた。寺の一帯は南北に伸びる小高い丘陵が浸食谷によって分けられ小規模ながら城を築くのに適した地形となっている。城の遺構などは何も残っていないが、寺が城跡の曲輪(削平地)を利用して建立されたと推定される。

## 釜沢の「石彫の道」

石彫の道

---

途中のショートカットに「復元・石工の道」

元井達夫さん作  
「星との話」1984



石彫の道の位置 (Google Map)



元井達夫さん作







定正院 (1) 三ノ峠山 (1)  
グリーンヒル長岡 ゴルフ倶楽部 (1)  
城山 (1)  
本覚寺 (1) 南蛮山 (1)  
472  
23  
石彫の道  
長さ400m近くに約30作品